

No.153

令和2年4月10日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



教育は生きる力を磨き深めることであらねばならぬ

新型コロナウイルスによる感染症拡大が止まりません。すでに政府による「緊急事態宣言」が出されている東京都では新たに181人、神奈川県では26人、千葉県で30人、埼玉県で35人……。『緊急事態宣言』対象外の愛知県でも新たに21人の感染者が報告されました。

イタリアやスペイン、アメリカをはじめとする欧米諸国では更に深刻な状況が続いています。医療崩壊に陥っている国では……。



「ハッと気づいて目を覚ますとそれは悪い夢だった」という幻想に駆られてしまうことがあります。ああ、夢であってくれたらよかったのに……。でも、悲しいかな現実なんです。

本日、大村愛知県知事は、県独自の「非常事態宣言」を出し、不要不急の外出や移動の自粛を強く呼びかけました。これに伴い、延長されていた臨時休業措置が5月6日まで再延長されることになりました。

4月8日から授業が再開されることを待ちわびていた生徒はもちろんのこと、私たち教職員にとっても痛手過ぎる痛手です。未履修問題をはじめとした山積する諸課題解決への道が、1か月も先送りにされてしまったのです。でも、いたしかたありません。豊橋だけの問題ではありませんし、なにより、いちばん大切な命に関わる問題です。

私たちに今できることを改めて考え直してみました。

- 1 錯綜する情報（特にデマ）に惑わされない。
- 2 感染者の8割は無症状か軽症者であることを再確認する。
- 3 不要不急の外出や移動を自粛する。
- 4 人との接触を8割減らす努力をする。
- 5 3蜜（密閉、密集、密接）を極力回避する。
- 6 手洗い・うがいを励行する。
- 7 マスクを着用し、咳エチケットに留意する。

これまで言われていること以上のことは絞り出せませんでした。ただ、ほとんど全ての日本人がこれらことを実践できたとしたら、2週間後にはおそらく明るい兆しが見えてくるはずです。

「辛」という文字に一本ポウを足せば「幸」という文字になる。おそらくどこかで一度は聞いたことがある話だと思います。私は一本足すポウは、「今日の辛抱」「明日への希望」だと思っています。今はぐっと身がかがめて、新型コロナウイルスという嵐が過ぎ去るのをじっと待つしかありません。ぐっと小さく身がかがめるのは、来るべき次への飛躍（ジャンプ）のための準備だと思ひましょう。

少し時間を巻き戻してしまいましたが、今回タイトルにした「教育は生きる力を磨き深めることであらねばならぬ」は、4月1日に行われた発令通知式で、山西正泰教育長が私たち校長に向けた挨拶の中で取り上げた言葉です。「生きる力」は、平成8年文部省（当時）の中央教育審議会から出された第一次答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」の中で取り上げられ、今や教育界では常識中の常識の概念になっています。ところが、山西教育長の「生きる力を磨き…」は、今から95年前の大正15年に発刊された「体験生活深化の真教育」という教育書に著された言葉なのです。この図書の考え方にに基づき、三河では「生活教育」や「子どもありきの教育」「問題解決的な学習」が地道ではありますが脈々と受け継がれ、実践されてきたのです。これらは、新学習指導要領を語るうえで欠かすことのできない「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）そのものと言って差し支えないと思います。山西教育長の言葉を借りれば「文科省が三河の教育にやっと追いついた」のです。

学校が再開されたあかつきには、各教科で「生きる力を磨き深める」授業が展開されることを大いに期待しています。そのための準備に勤しみましょう。